

医科用自動水栓

赤外線センサー(非接触式)

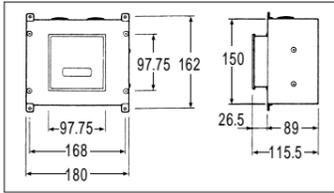
OK-22A

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお同封の「取扱説明書」は施工完了後、お客さまにお渡しください。

この商品は水栓セット(LF-58ASM-1またはLF-158TSM-1)(別売)と組み合わせて使用します。
水栓セットの施工説明書と合わせてご覧ください。

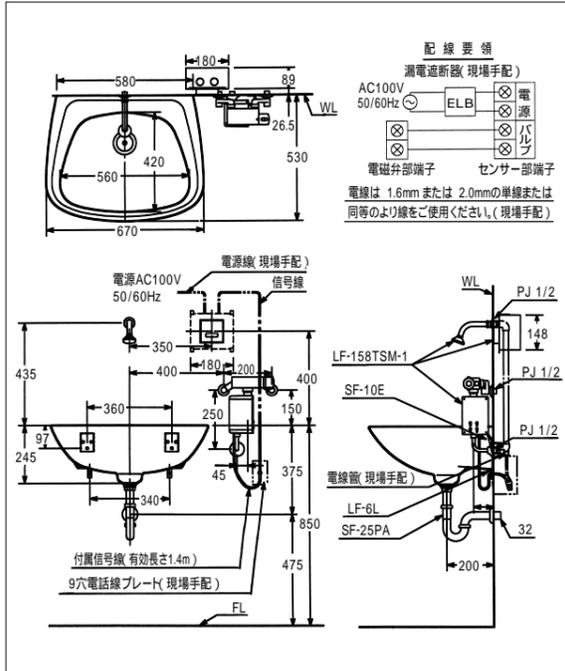
商品図

(センサー部)OK-22A



施工完了図

(医科用自動水栓全体図)LF-158TSM-1の場合



仕様

品番	OK-22A
電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	常時5W以下 バルブ作動時16W以下
感知距離	250mm(80角白色紙使用時)
感知距離調節範囲	150~350mm(80角白色紙使用時)
電磁弁開時間	60秒
電磁弁開時間の調節範囲	10秒~5分
使用周囲温度範囲	0~40℃
漏電リレー	感度電流3mA、定格電流5A
電磁弁作動電圧	DC24V

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

施工完了後、正常に作動することを確認してください。

この施工説明書はお客さまで保管頂くよう依頼してください。

用語の説明

警告 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が発生することが想定されます。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

警告

修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
発火したり、異常作動してケガをすることがあります。

水をかけないでください。
ショート・感電の恐れがあります。

注意

表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では、使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電気配線工事は、必ず資格を持った電気工事士が行ってください。
ショート・感電の恐れがあります。

交流100V以外では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

施工前のご注意

電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。

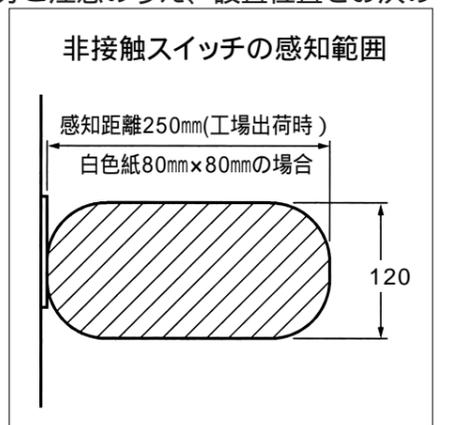
万 - の際の危険防止のため、電源の - 次側に漏電遮断器を設置してください。

電源電線は 1.6mmまたは 2.0mmの単線または同等のより線をご使用ください。

赤外線センサーに対面する位置に、鏡、ステンレス板等、光の反射しやすい物をおかないでください。

開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないようにしてください。本品は赤外線センサーを使用しています。他の赤外線装置が近くにあると誤作動をすることがありますので、十分ご注意のうえ、設置位置をお決めください。

非接触スイッチ(赤外線センサー)の感知範囲(右図)には障害物が入らないようにしてください。特に手すりや、開放時のドア等を感知しない位置に設置してください。



水道工事と電気工事は、十分工程を打ち合わせの上行ってください。誤作動する恐れがありますので付属の信号ケーブル(5m)の延長は行わないでください。

短くする場合は極性に注意し、同じ色どうしを接続してください。

センサー窓は傷つけないよう十分ご注意ください。

電気器具ですから、水をかけないよう注意してください。

施工方法

湿式タイル壁への施工方法

1. 下地壁の準備

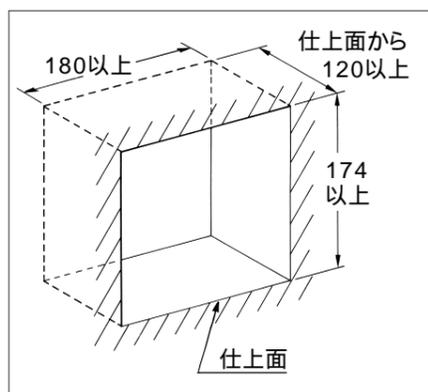
商品図を参考に電線管用接続口に合わせて、電線管を施工し電源電線、信号線を通しておきます。電源電線と信号線の2本は必ず別々の電線管を使用してください。同一電線管内に2本のコードを通しますと誤作動する場合があります。

電線管(E19)、電線管コネクタ(E19)、スイッチボックス(カバー付)(JIS C8336)、電話線プレート(National品番WN7661等)を現場手配してください。

2. 取付位置の墨出し

下地壁にセンサー部とスイッチボックスの取付位置を示す中心線の墨出しをし、はつり部を決めます。

スイッチボックスは「電磁弁部」または「電磁弁+サーモスタット部」(各別売)の取付位置付近となるように位置を決めてください。



3. 下地壁のはつり

墨出した寸法に合わせて下地壁をはつります。センサー部の奥行きは仕上面より120mm以上必要です。

4. センサー部の取付け

(1)4本の前面プレート固定ねじをゆるめ、埋込ボックス前面プレートを外します。

(2)埋込ボックス前面プレートから、表面プレートを付属の吸盤を使用して取り外します。

吸盤は表面プレートの隅に吸着させますと取外しが容易です。

(3)4本のセンサーボックス固定ねじをゆるめ、センサーボックスを外します。

(4)3種類のコネクタを外します。

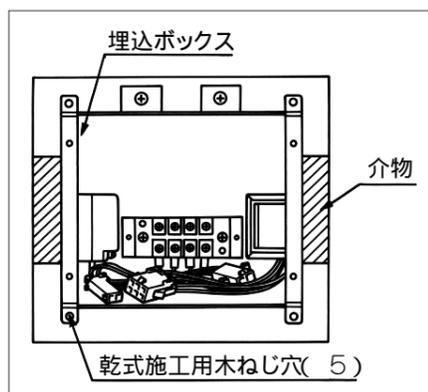
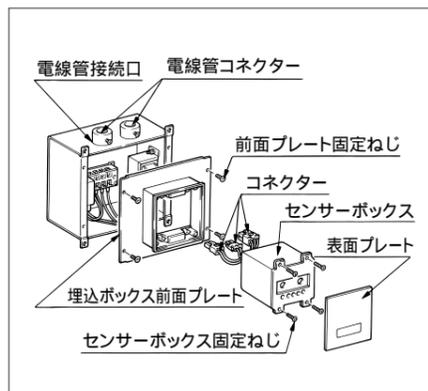
(5)電線管接続のキャップを外して電線管コネクタを取り付けます。

(2ヶ所)

(6)施工完了図に従って、埋込ボックスを仮固定します。(埋込ボックスの奥行き寸法：89mm)

壁はつり面と埋込ボックスはモルタル等の介物でしっかりと固定します。

埋込ボックスの位置合わせを必ず行ってください。



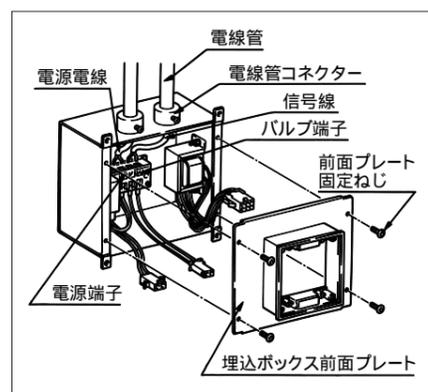
(7)100V電源電線と信号線を埋込ボックスの中へ引き込みます。

(8)電線管コネクタに電線管を取り付けます。

(9)電源端子に電源電線を接続します。
左側の2ヶ所に接続してください。

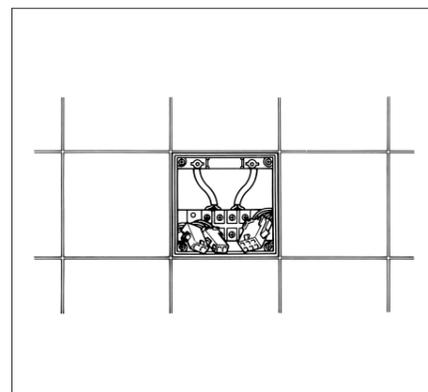
(10)バルブ端子に信号線を接続します。
右側の2ヶ所に接続してください。

(11)埋込ボックス前面プレートを前面プレート固定ねじで取り付けます。



(12)埋込ボックスの周囲をモルタルで埋め戻し、壁を仕上げます。

埋込ボックス内にモルタルが入らないように注意してください。

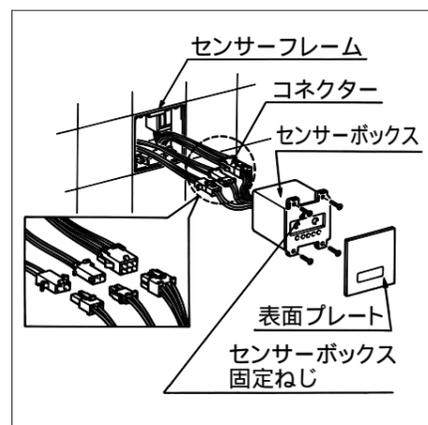


(13)3種類のコネクタを接続します。
配線の色が同じコネクタどうしを接続してください。

(14)センサーボックスを4本のセンサーボックス固定ねじで、センサーフレームに取り付けます。

センサーボックスは上下方向に注意して取り付けてください。

(15)表面プレートを取り付けます。
表面プレートは磁力によりはめ込むだけで取り付けできます。



5. スwitchボックスの取付け

(1)スイッチボックスに電線管コネクタを取り付けます。

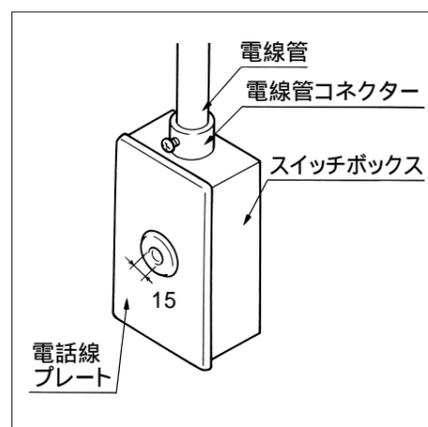
(2)スイッチボックスをはつり部に仮固定します。

(3)センサー部からの信号線をスイッチボックスの中へ引き込みます。

(4)電線管コネクタに電線管を取り付けます。

(5)電話線プレートを取り付けます。

(6)「電磁弁部」または「電磁弁+サーモスタット部」の施工時に信号線のつなぎ込みを行います。



乾式タイル壁への施工法

施工のための奥行寸法が120mm必要です。

1. 取付壁・フレームの加工

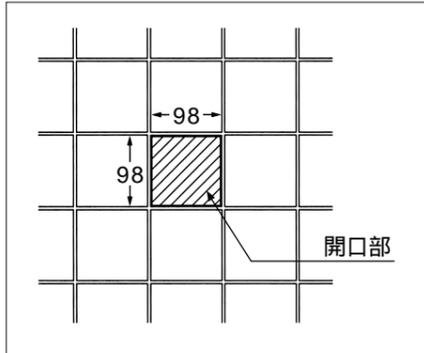
(1)センサー部とスイッチボックスの取付位置の横に埋込ボックス固定用の軽量間柱をフレームを利用し、固定します。

(2)センサー部の取付位置に98(W)×98(H)(100角タイル1枚分)の開口部を設けます。

スイッチボックスの取付位置にスイッチボックスに応じて開口部を設けます。

スイッチボックスは「電磁弁部」または「電磁弁+サーモスタット部」(各別売)の取付位置付近となるように位置を決めてください。

スイッチボックス(カバー付)(JIS C8336)、電話線プレート(National品番WN7661等)を現場手配してください。



2. センサー部の取付け

(1)4本の前面プレート固定ねじをゆるめ、埋込ボックス前面プレートを外します。

(2)埋込ボックス前面プレートから、表面プレートを付属の吸盤を使用して取り外します。

吸盤は表面プレートの隅に吸着させますと取外しが容易です。

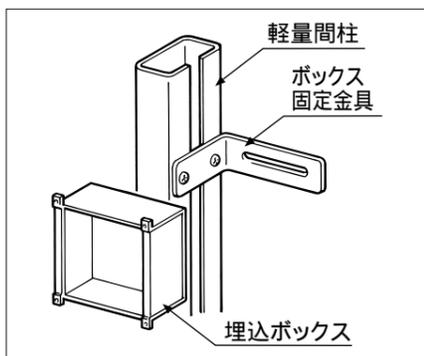
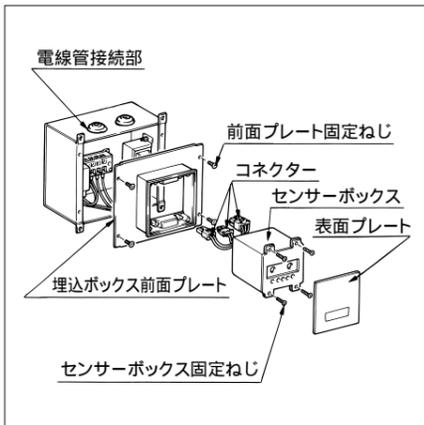
(3)4本のセンサーボックス固定ねじをゆるめ、センサーボックスを外します。

(4)3種類のコネクターを外します。

(5)電線管接続口のキャップを外して市販のゴムブッシュ(20用:現場手配)をはめます。

(6)市販のボックス固定金具(現場手配)等を利用し、軽量間柱に埋込ボックスを固定します。

埋込ボックスは仕上壁の開口部と位置決めをしてから固定してください。



(7)100V電源電線と信号線を埋込ボックスの中へ引き込みます。

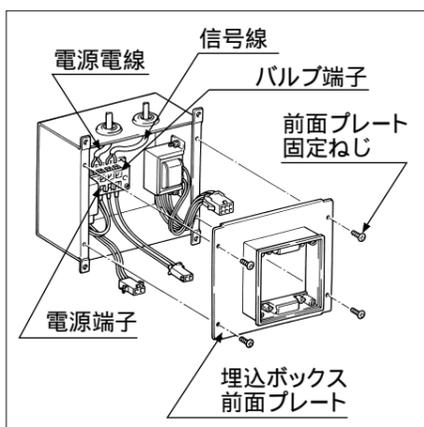
(8)電源端子に電源電線を接続します。

左側の2ヶ所に接続してください。

(9)バルブ端子に信号線を接続します。

右側の2ヶ所に接続してください。

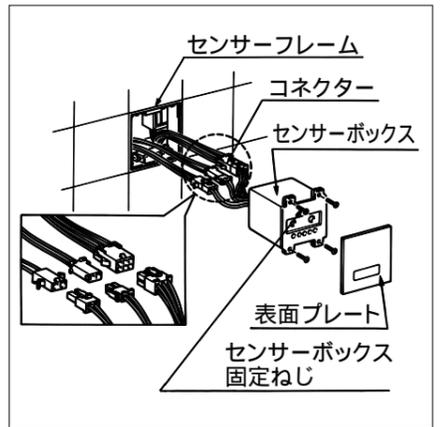
(10)埋込ボックス前面プレートを前面プレート固定ねじで取り付けます。



(11)3種類のコネクターを接続します。配線の色が同じコネクターどうしを接続してください。

(12)センサーボックスを4本のセンサーボックス固定ねじで、センサーフレームに取り付けます。センサーボックスは上下方向に注意して取り付けてください。

(13)表面プレートを取り付けます。表面プレートは磁力によりはめ込むだけで取り付けできます。



3. スイッチボックスの取付け

(1)センサー部と同様に市販のボックス固定金具(現場手配)等を利用し、軽量間柱に埋込ボックスを固定します。

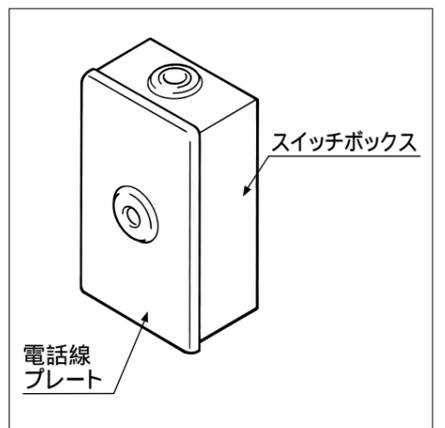
スイッチボックスは仕上壁の開口部と位置決めをしてから固定してください。

(2)スイッチボックスの電線管接続口に市販のゴムブッシュ(20用:現場手配)をはめます。

(3)センサー部からの信号線をスイッチボックスの中に引き込みます。

(4)電話線プレートを取り付けます。

(5)「電磁弁部」または「電磁弁+サーモスタット部」の施工時に信号線のつなぎ込みを行います。



施工後の調節

現場状況により調節の必要が生じた場合、センサー部の表面プレートを外し次の要領で調節してください。

表面プレートは同梱の吸盤を表面プレートの隅に吸着させて取り外してください。

感知距離の調節

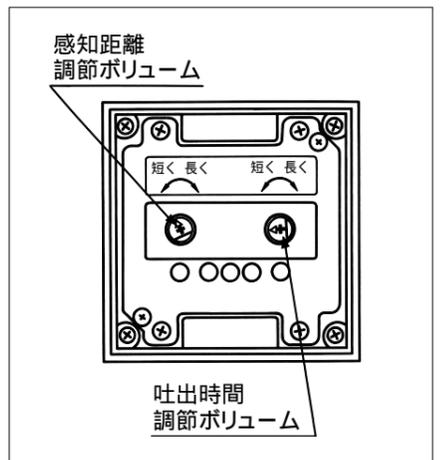
ゴムブッシュを取り外すと感知距離調節ボリュームがついています。

調節は150mm~350mm(80角白色紙使用の場合)の間で可能です。

小形のプラスドライバー調節してください。

工場出荷時には250mmに設定しています。

調節後は必ずゴムブッシュ(防水用)を取り付けてください。



吐出時間の調節

ゴムブッシュを取り外すと、吐出時間調節ボリュームがついています。小形のプラスドライバー等で調節してください。

吐出時間は、一度手を差し出してから自動的に止水するまでの時間です。出荷時設定は60秒に設定してあります。調節は10秒~5分の間で可能です。

です。

